

第4章

doi: 10.18999/bulsea.64.21

生物臨海実習

西 川 陽 子

(1) 仮説

実物による学習を通じ、生命現象、自然に対する理解を深めることを目標とする。

(2) 学習方法

- ・期 間：平成30年7月27日（金）
- ・場 所：名古屋大学大学院理学研究科附属菅島臨海実験所（三重県鳥羽市菅島町）
- ・参加者：高校2年生 生物選択者のうち12名

(3) 実践内容

- ・磯採集と採集生物の分類と講義
- ・ウニの採卵採精、受精と発生過程の観察
- ・プランクトン採集と観察

(4) 評価

ウニは人工受精が簡単にでき、年間を通じて実験が可能な生物であるが、高校2年生時にウニの発生に関する学習を行っても、通常授業において実際に観察を行うことは難しい。そこで、今回の臨海実習では、ウニを用いて発生過程の観察を中心に行うことができた。実際に目で見て、手を動かすという行動によって、教室で学んだ内容の理解をさらに深めることができ、生物の多様性に気づき、生命現象の不思議さを体験することができた。これは、我々の期待通りであり、生命現象や自然に対する理解を深めることができ、目標を達成できたといえる。

また、実習後に、磯採集で見つけた生物やウニの発生について、校内にてポスター提示をする機会をもうけたり、「生物」の授業で発表を行ったりした。また、例年臨海実習は、一泊二日で行っているが、今年度は台風のため、日帰りで行ったため、縮小版という形だったが、学校では体験できないことを体験できたことは良かったが、少し残念ではあった。（文責 西川陽子）